

平成13年8月23日

日本学術振興会
プロセスシステム工学第143委員会
委員長 小野木 克明

プロセスシステム工学第143委員会

第134回委員会・平成13年度第3回研究会 開催通知

(143委員会ホームページ <http://jsps143.pse.nuce.nagoya-u.ac.jp/>)

1. 日時：2001年10月5日（金）13:00～17:00
2. 場所：東京 弘済会館（東京都千代田区麹町5-1 / 電話：03-5276-0333）
（交通：JR中央線・地下鉄丸の内線「四ッ谷駅」下車徒歩3分）
3. 委員会：(13:00～13:10)
4. 研究会：(13:10～17:00) テーマ：「環境調和のためのPSE」
 - 13:10～14:15 「ライフサイクルアセスメント（LCA）の現状と展望」
産業技術総合研究所ライフサイクルアセスメント研究センター 稲葉 敦 氏
<概要> LCAは工業製品およびサービスの環境影響を評価する手法として発展し、企業において既に実務として使用される段階になっている。生産活動により生ずる環境負荷を低減するために、LCAの考え方は環境調和型製品開発や企業の環境経営に適用されつつある。LCAに関連する現状の話題を紹介し、今後の展望を述べる。
 - 14:15～15:20 化学産業における「レスポンシブルケア活動」
住友化学工業（株）レスポンシブルケア室 石井 一弥 氏
<概要> レスポンシブルケア活動とは、化学物質を扱うそれぞれの企業が開発から製造、物流、使用、最終消費、廃棄に至る全ての過程で、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、社会からの信頼性向上とコミュニケーションを行う活動である。事業者は、レスポンシブルケア実施の宣誓と目標の設定に基づき自主管理活動（計画、実施、評価、改善）を展開する。レスポンシブルケア活動について、日本レスポンシブルケア協議会（JRCC）および住友化学の取り組みについて紹介する。
 - 15:20～15:40 コーヒーブレイク
 - 15:40～16:45 「環境パフォーマンスと環境会計」
横浜国立大学大学院国際社会科学研究所 河野 正男 氏
<概要> まず企業の様々な環境保全活動を組織的に管理するために構築される環境マネジメントシステム（EMS）について簡単に触れ、次にEMS運用の結果である環境パフォーマンスの評価について概括する。その上で、環境保全活動に要したコストと物量および貨幣単位で測定した環境パフォーマンスとの比較分析を目指す環境会計について紹介する。
 - 16:45～17:00 まとめ
東京大学 平尾 雅彦 委員

<追記>

準備の都合がありますので、出欠を裏面にご記入の上、9月25日（火）までにご回答下さい。

[送信先]

名古屋大学工学研究科 分子化学工学専攻 小野木 克明 FAX：052-789-3267